

	しこくちゅうおうし 四国中央市	〒799-0497 四国中央市三島宮川4丁目6番55号		電話 番号	(0896) 28-6000
		地域 指定	過疎 山振 農工 辺地(2) 特農 農振 県立公園		FAX

<http://www.city.shikokuchuo.ehime.jp/>

〈沿革〉

昭29. 3.31	新宮村(合体:上山村・新立村)
昭29. 3.31	土居町(合体:長津村・小富士村・燕崎村・天満村・土居村・関川村)
昭29.11. 1	川之江市(合体【市制施行】:川之江町・金生町・上分町・金田村・川滝村・妻鳥村)
昭29.11. 1	伊予三島市(合体【市制施行】:松柏村・三島町・寒川町・豊岡村・金砂村・富郷村)
平16. 4. 1	市制施行(川之江市・伊予三島市・土居町・新宮村 合併)

〈市町のあらまし〉

<p>愛媛県の東端部に位置し、東は香川県、北は瀬戸内海に面し、更に南東で徳島県、南は四国山地を介して高知県に接している。</p> <p>四国縦貫・横断道の結節点として、2つのジャンクションと3つのインターチェンジがあり、四国各県の県庁所在地まで約1時間と、まさに四国の中央、交通の要衝の地といえる。</p> <p>産業としては、川之江・三島地域の紙・紙加工業、そして土居・新宮地域の第1次産業と大きく分類されるが、製造品出荷額等はおよそ5千億円ほどであり、四国最大規模の工業都市となっている。</p>
--

〈由来〉

<p>川之江市、伊予三島市、土居町、新宮村の4市町村が合併して誕生した「四国中央市」は、全国からみても新市の位置を地理的にイメージしやすい名称であり、「四国の4県」が接する自治体である。また、エクスハイウェイの結節点に位置し、四国4県の県庁所在地のいずれにもほぼ1時間で結ばれるという好条件にあり、更に四国最大規模の国際貿易港(三島川之江港)を抱え、海上交通の要衝としても期待が高まってきている。</p> <p>将来、道州制が導入されたときには、これらの好条件を生かし、四国の交流拠点都市として一層の発展をという希望、気概が込められた名称である。</p>

〈庁舎の建設年度〉

建築年度	増 改 築	主な増改築箇所
平30年度		

〈行政組織〉

(令和 2. 4. 1現在)

区 分	名 前	任 期
市 長	<small>しのほら</small> <small>みのる</small> 篠原 実	令和3. 4.27
副市長	坂上 秀樹	令和3. 6.30

議 会 (令和 2. 12. 1現在)

議長	吉田 善三郎	副議長	眞鍋 幹雄
議員	(条例定数) 22人		
	(現 員) 22人		
任期	令和6.11.27		

職員数 (令和 2. 4. 1現在)

普通会計	766人
企業会計	39人
その他会計	77人
計	882人

〈人口・世帯数〉

()は増減率

区 分	平2国調	平7国調	平12国調	平17国調	平22国調	平27国調	令 2. 1. 1住基
人 口	(0.2%) 97,215	(△1.6%) 95,658	(△1.4%) 94,326	(△1.6%) 92,854	(△2.9%) 90,187	(△3.1%) 87,413	86,406
	男	47,414	46,465	45,683	45,013	43,659	42,596
	女	49,801	49,193	48,643	47,841	46,528	44,817
世帯数	30,607	31,540	32,957	34,419	34,951	34,999	38,870

年齢構成（平27国調）

区 分	14歳以下	15歳以上64歳以下	65歳以上
人 口	10,741 人	49,719 人	26,123 人
構成比	12.3 %	56.9 %	29.9 %

選挙人名簿
登録者数（令和2.9.1現在）

男	35,360 人
女	37,367 人
計	72,727 人

〈土地利用〉

（平27.2.1現在）（ha. %）

総面積 令和2.7.1 (km ²)	林野面積	林野率	経営耕地面積			宅地化率 令元.1.1	
			田	畑	樹園地		
421.24	33,045	78.4	1,069	831	85	153	9.8

〈産業〉 産業構造

（百万円・人）

区 分	総生産額(平29年度)		就業人口(平27国調)	
第1次	3,912	0.8 %	1,646	4.1 %
第2次	244,307	51.4 %	15,739	39.5 %
第3次	226,714	47.7 %	22,438	56.3 %
計	474,933	100.0 %	39,823	100.0 %

（注）「総生産額」の計欄は附属利子の控除等を行っており、「就業人口」の計欄は分類不能の人数を含む。

主要製造業（平30年）

（百万円）

品 名	製造品出荷額等
パルプ	506,710
プラスチック	50,169

所得（平29年度）

1人当たり 市町民所得	3,472 千円
----------------	----------

令和元年度の主な建設事業

（百万円）

今後の主な建設事業

（百万円）

事業名	事業費	事業名	事業費
新庁舎建設事業	2,307	小学校施設整備事業	-
市民文化ホール建設事業	2,162	社会資本整備総合交付金事業	-
川之江地区整備事業	957	川之江地区整備事業	-
浸水対策事業	455	老人福祉施設整備事業	-
社会資本整備総合交付金事業	449	三島小学校整備事業	-
三島小学校整備事業	424	市単道路改良事業	-
市単道路改良事業	352	中学校施設整備事業	-
金生公民館新築事業	305	塩谷・小山線街路改築事業	-
認定こども園整備事業	234	江之元地区再開発事業	-
漁港海岸整備事業	175	漁港海岸整備事業	-

〈観光・レクリエーション〉

名勝旧跡 観光施設	三角寺(四国65番札所) 真鍋家(国重要文化財) 向山古墳(国指定文化財) 東宮山古墳 城山公園 紙のまち資料館 翠波高原 金砂湖畔公園 法皇スカイライン 富郷溪谷 富郷キャンプ場 富郷ダム てらの湖畔広場 三島公園 具定展望台 新長谷寺 下柏の大柏(天然記念物) 塩塚高原 旧土佐街道 椋尾山 新宮ダム 森と湖畔の公園 寒川豊岡海浜公園ふれあいビーチ 霧の森 霧の高原 すずきヶ原入野公園(桜の名所) ニッ岳 赤星山 東赤石山 大楠(大川) 蓮(西福寺) 奥之院仙龍寺 霧の森交湯～館
祭 り 催 し 物	桜まつり(4月上旬) 菜の花まつり(4月中旬) お茶まつり(6月上旬) あじさいまつり(6月中旬～下旬) 土居夏まつり(8月15日) かわのえ夏まつり花火大会(7月中旬土曜日) みなと祭(7月23日～25日) 紙まつり(7月最終土・日曜日) 湖水まつり(8月上旬) てらの金砂湖畔広場 夏の感謝祭(8月下旬) 鐘踊り(8月最終日曜日) コスモス祭(8月下旬) 土居のいもたき(9月上旬～9月末) 秋まつり(10月13日～15日・10月20日～23日) 霧の森 秋の大収穫祭(10月下旬) てらの金砂湖畔広場 秋の感謝祭(10月下旬) 別子翠波はな街道サイクリング(11月上旬) 四国中央スカイラン(11月上旬)
公 営 宿 泊 施 設	霧の森コテージ7棟 霧の高原コテージ4棟(4月～10月)

〈名物・特産品〉

紙加工品 水引細工 手すき和紙 煮干いりこ えびちくわ 里芋 つぐね芋 赤石五葉松 みかん
茶 霧の森大福

〈主な公共施設〉

紙のまち資料館 川の江城 歴史考古博物館高原ミュージアム 市民文化ホール 文化センター 文化会館 暁雨館
福祉会館 保健センター 図書館 農村環境改善センター 運動公園 市民体育館 市民プール 野球場 テニスセンター
スカイフィールド富郷 浜公園多目的広場 三島公園 森と湖畔の公園 新田公園 やまじ風公園 大地山公園
すずきヶ原入野公園 関川河川敷公園 老人福祉センター クリーンセンター 国保診療所 少年自然の家 老人憩いの家
消防防災センター 霧の森交湯～館 霧の森 霧の高原 子ども若者発達支援センター 川の江ふれあい交流センター

〈主要課題〉

少子高齢化や人口減少の中において、本市の中小企業における人材確保が大きな課題になっており、地域活力を維持していくために若い世代が戻りたくなる環境整備や子育て世代が安心して暮らせるまちづくりの取組みを更に推進する必要がある。

また、公共施設等の更新については、平成29年3月に策定された公共施設等管理計画に基づいて、既存公共施設の複合化・集約化などを含め、公共施設等の適正配置と有効活用及び財務負担の軽減・平準化を図り、将来に負担を残さない行財政運営を行う必要がある。

さらに、新型コロナウイルスの影響により停滞した地域経済の回復、コロナ禍における市の各種事業の継続や今後のあり方が課題となっている。

〈地域づくりの事業等〉

○新宮地域にある観光施設「霧の森」は、天然温泉を備えた研修施設「霧の森交湯～館」の併設や平成22年度の道の駅としての登録などにより、充実が図られており、キャンプ施設「霧の高原」とともに地域の産業振興と雇用促進の場としても重要な施設となっている。これらの施設の更なる有効活用により、都市と農村との交流促進による交流人口の増加を図っていく。

○土居地域の運営委員会が主催の「いもたき」は毎年9月に1ヶ月間、関川河川敷(ふるさと広場)で行われており好評を得ている。

○子どもの基礎体力向上や子育て環境の充実をはじめ、世代間のふれあいの場の創出、地域の活性化を図るため、市民との協働により「園庭・校庭等芝生化事業」を実施している。

○平成22年に映画化(書道ガールズ!! ～わたしたちの甲子園～)され、参加者が全国へ広がりを見せている「書道パフォーマンス甲子園」を、毎年7月下旬～8月上旬頃に本市で開催することで、四国中央市を全国に発信し、書を通じた新文化の創造発展及び地域の活性化を図る。

○「紙のまちの子育て応援」として、地元紙おむつメーカーとの協働により1歳未満の子どもがいる家庭に紙おむつを無償で提供する事業を実施しており好評を博している。紙製品の地産地消により地場産業の活性化につなげるとともに子どもを産み育てたくなるまちづくりを推進していく。

○公民館単位の地区住民が、それぞれの地域が抱える課題について、住民自ら解決策を考え行動することにより、住民同士の絆の再生、地域力の強化を図るため、平成26年度から「地域コミュニティ活性化事業」を実施している。

